



松浦 英幸 (Hideyuki Matsuura) 「バレイショプロジェクト」

大学院農学研究院基礎研究部門生物機能化学分野生物有機化学研究室

研究室HP: <https://hokudaiseibutsuyuuki.wixsite.com/natural-products>

E-mail: matsuura※chem.agr.hokudai.ac.jp (※を@に)

出身地: 北海道富里、出身校: 帯広柏葉高等学校

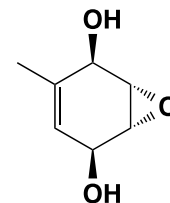


図. 糸状菌由来の生理活性物質セオブロキシドの化学構造。比較的生産量が高く、生理活性もユニークで産業利用を期待できる？



図. トマト種子の発芽の様子。休眠期間を必要としない種子で果実内で、『いつでも発芽』の状態をKeep。

## 【研究テーマ】

### 1. 植物病原菌の生産する生理活性物質

病原菌は自己の作る生理活性物質を駆使して、植物を攪乱し、感染を容易にしていると予想しています。この『病原菌の生きる知恵』を逆手にとって病害防除に利用できないか研究を行っています。

### 2. 植物の生活環制御に必要な生理活性物質

植物の生活環制御は、次世代に命をつなぐために厳密にコントロールされなければなりません。我々は、この生物現象を生理活性物質の観点から解明しようと研究を行っています。現在、『バレイショ塊茎の誘導機構』、『ダイコンの抽だい抑制物質』、『トマト果実内胎生発芽抑制物質』のテーマが進行中。

## <活用シーン例>

病原菌の強い生命力を活用した病害防除や発芽促進をコントロールすることで、健康食品で使用される有機物抽出の活用等